

2022年11月25日  
国立大学法人東京大学

国内大学で初めて、Scope1、2、3における温室効果ガス排出量を算定し、  
2050年ネット・ゼロへの道筋を可視化・具現化しました  
——「UTokyo Climate Action」を策定——

2022年10月、東京大学は2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ（ネット・ゼロ）を達成するための行動計画として「UTokyo Climate Action (CA)」を策定しました。国内大学としては初めて、Scope1、2、3における温室効果ガス排出量を算定し、この算定結果をもとに、各Scopeにおける2030年、2040年、2050年までの削減目標を設定しています。

東京大学は、昨年9月に公表した基本方針 UTokyo Compass「多様性の海へ：対話が創造する未来 (Into a Sea of Diversity: Creating the Future through Dialogue)」のもとで、本学が有するあらゆる分野の英知を結集し、ジェンダー平等、紛争や分断、エネルギー、気候変動などの人類社会が直面する地球規模の課題に取り組んでいます。昨年10月には、我が国の国立大学として初めて、国連気候変動枠組み条約事務局 (UNFCCC) が展開するキャンペーン「Race to Zero」に参加しました。

このたび、ネット・ゼロへの道筋を可視化・具現化するため、UTokyo Climate Action (CA) を策定しました。ライフサイクルアセスメント (LCA) の手法を用い、国内大学としては初めて Scope1、2、3における温室効果ガス排出量を算定し、この算定結果をもとに、各Scopeにおける2030年、2040年、2050年までの削減目標を設定しています。まずは2030年度までに温室効果ガス排出量を Scope1、2では50%、Scope3では25%の削減を目指します (2013年度比)。目標の達成には、省エネ対策の加速と、オンサイト・オフサイトでの創エネシステムの導入が重要となります。同時に、再生可能エネルギーの戦略的な調達も必要になると考えられています。本学は、東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト (TSCP) を2008年にスタートさせ、省エネルギー対策による低炭素型キャンパスづくりのためのさまざまな取組みを進めてきました。現在は、空調の効率化を図るとともに、今後数年間でキャンパス内の10万本以上の蛍光灯をLEDに変更することを進めています。また、学生による活動として、同プロジェクトの学生委員会が中心となり、「SHUT the SASH」というキャンペーンを実施し、エネルギーの効率化を図っています。

東京大学が掲げる野心的な目標には、東京大学のすべての学生やスタッフのコミットメントが必要であり、産業界や自治体や政府、市民の皆さんとの強固なパートナーシップも必要となります。今後、東京大学ではこれまで蓄積した知見をもとに、産業界や自治体や政府、市民の皆さんと協力しながら温室効果ガス排出量削減活動を推進していきます。

詳しい内容はこちらをご覧ください。

○UTokyo Climate Action

<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400201994.pdf>

○東京大学グリーントランスフォーメーション（GX）

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/gx.html>



【本件に関する問い合わせ先】

国立大学法人東京大学 経営企画部 GX 推進課

E-mail : [gx-promotion.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp](mailto:gx-promotion.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)